

あむま

2009.11.27.

学校体育研究同志会東京支部 西多摩ブロック

11月例会 集団イメージ音楽マットのもつ意味とは

11月14日(土)にあきる野・屋城小で西多摩ブロック11月例会が開催されました。5・6年生の集団音楽マットの実践報告(まだ実践の途中ですが)をもとに、集団音楽マットの実践経験のある方や、「個人の連続技から集団イメージ音楽マットへ」と題する実践報告を書いている方から話をしてもらいながら、参加者全員でマット運動についての議論を深めました。この日の参加者は5人、充実した例会になりました。

近況から

■ Aさんの学校では、校内研は「言語活動の充実」という研究テーマで、全教科、全領域で取り組んでいるそうです。体育科での言語活動の充実ということで、ハンドボールの授業を行っています。例会でも、実践報告をしてくれるとのことでした。

■ Bさんからは、4年生でフラッグフットボールに取り組んでいるという話がありました。6人チームで5人对5人のゲームをやっているということでした。ゲームに時間がかかるという悩みに対して、この例会の中でも、どうしたらよいか話し合いました。

■ Cさんはラグハンドに取り組んでいます。コートも何もなくて、ボール一つから始め、その中で不都合を感じた子どもたちの声を大切にして、コートをつくったり、ゲームの人数を決めたりして発展させていくのだということでした。

■ 展覧会で忙しく、なかなか体育の時間がとれなかったDさん、やっと鉄棒の学習が始められ、ジャングルジムやのぼり棒を使った授業を1時間やると、子どもたちは「すごく楽しい」と喜んでいました。そのDさんの、今とても気がかりな子がいるという話は、ずしんとくるような話でした。

■ 5・6年のマット運動の授業をやっているEさんは、なぜ集団音楽マットなのかということで悩んでいて、この日の例会でいろいろ意見をうかがいました。

この日、話し合われたこと

■ マット運動の実践報告

オリエンテーション、マット運動実態調査

事前にやったアンケート結果から、「すき」の理由は、「できる」「得意」「すきな技がある」ということであり、「きらい」の理由は「できない」「きらいな技がある」「うまくないから」であるということがわかった。そこから、この集団音楽マットの学習のめあてを次のようにすることをみんなで決めた。

- ・はげまし合い、教え合って、みんなでできるようになろう。
- ・集団音楽マットをみんなでつくり上げよう。

くまさんのお話

- ・くまさん歩きで、手（べったり着く、腕支持）腰（頭より高く、逆さ感覚）頭（頭を起こす、逆位での身体制御）の視点でグループで調べあう。
- ・「くまさんがやってきて 転んだよ ハイポーズ」で、技の連続（一連の動作）と、前転のポイント。「くまさんがやってきて ガオー 山を跳び越え ハイポーズ」で、側転の前の構えと、手 - 手 - 足 - 足の順序性

側転の手足の順序性

- ・手型、足型を使って、足 - 手 - 手 - 足 - 足がどのような位置関係で並ぶか、グループで調べあう。

側転で、腰を上げるには、足を上げるには（ゴムひもを使って）

- ・「１．腰を高く上げるにはどうしたらよいか」と問いかけて、始めから高く上げるために、踏み切り足と最初に着く手の間にゴムひもを張って、側転をする。
- ・「２．足を高く上げるためにはどうしたらよいか」と問いかけて、足の位置にゴムひもを張り、そこに足が届くようにして側転をした。

グループづくり、グループノートの書き方

スムーズに連続させるには 側転→前転→V字バランス（大→小→止）

- ・「側転→前転→V字バランス」をスムーズに連続させるために大切なことを確認した。「方向を変える」「前を向く」ということでまとめた。

スムーズに連続させるには 前転→側転→バランス（小→大→止）

側転→前転→ジャンプ→側転→ポーズ

- ・「足をおしりにつける」「立ち上げる」「手を上に上げる」という答えが出てきた。側転につなげるために「立つ」ということが必要だとカードにまとめた。
- ・スムーズに連続させるためにわかったことを使って「側転→前転→ジャンプ→側転→ポーズ」の連続技に取り組んだ。

いろいろな側転をやってみよう

- ・「ゆっくりとした側転」で自分の体がどうなっているかを感じ取る。

往復の連続技をやってみよう

《往》始めます→側転→前転→ジャンプ→側転→ポーズ

《復》ターン→助走→ホップ側転→ポーズ

- ・相撲マットを真ん中に置き、放射状にマットと敷いて班全員が一斉に連続技を行う。
- 2 回目の発表は、みんなで合わせよう、そろえようという気持ちが全面に出ていて、よかった。

■ 集団イメージ音楽マットのよさ

Aさんから、集団イメージ音楽マットの学習をどのように進めるのか、また、そのよさはどんなところにあるのかという話がありました。まず、モデルの連続技にグループで取り組み、みんなができるようにします。その中で、「次技予測」「姿勢の変化」「スピードコントロール」「姿勢制御」「技の大小・強弱・静止」「はじめ・なか・おわり」を学んでいきます。それを基礎にして、イメージをもとにして、ストーリーにあわせた連続技を考え、作品づくりをします。この段階になると、子どもたちはグループでとてもよく協力し、いきいきと作品づくりに向かうということでした。放課後、グループの子の家に集まって考え合ったり、寸暇を惜しんで練習したり、グループがよくまとまり、学級全体も高まっていくのが「集団イメージ音楽マット」のよさだということでした。「創作活動こそがおもしろい。創作活動の中で結び合いができ、いいクラスになっていく」とAさんは言っていました。

■ 二人のコンビネーション

Bさんのお話で特に印象に残ったのは、「二人で合わせる」ことの意味についてです。お話マットも、「お話」という外から規定されたものに合わせるという合わせ方をしていますが、それが「二人で合わせる」ということに発展していくと、ちがった意味が加わります。自分のからだ、友だちのからだの見つめ直しができ、どう伝えるのかを対象化できる。ペアでやることによって、個人の技術も向上するし、見ている方もよさを感じられるということもあります。「二人のコンビネーションで一つのものをつくる」と言っていたBさんの言葉に、大変深いものが感じられました。

またBさんは、「東京支部大会でやっていたように、みんなが同じ技をしながら、空間の使い方を考えて表現していくというふうでよいのではないか。」というようなことも言っていたように思います。

■ 「ぼくもみんなと同じようにできた！」よろこび

Dさんは、お話マットの発表会を、放射状に並べたマットで、グループの子たちが

みんなでいっしょに合わせてやるようにしていました。その中で、あまり得意ではない子も、みんなに合わせていっしょにやっていたことで「ぼくもみんなと同じようにできた」と喜ぶことができたこと、また、そのことをお母さんがとてもうれしく思ったことを話していましたが、ここからも大切なことが見えてくるようです。

参加された方の感想から

技能のちがいを合わせて一つのことをつくり上げる集団発表の難しさとおもしろさを感じました。

みんな同じ技でまとめあげる、イヤ、できる技での参加を生かす、どちらを主にするかによって、マット運動のねらいがちがってくるように思う。

小学校のマット運動でもとめるもの、今回考えさせてもらいました。子どもたちが楽しく体育にさんかできる。苦手を乗り越えさせる。高になるにつれて出てくるだけに、低・中でどう学び、積み上げていこことが大切か、また勉強したいです。（Cさん）

マット運動の実践、めあてカードやポイントが書かれているものを見させてもらって、とても参考になりました。私は一年担任ですが、お話マットをやった時に「具体的でないところがたくさんあったな」と思いました。

お話を聞きながら、授業風景が頭に浮かぶようでした。発表会の授業が楽しみです。できれば、ぜひ見に行きたいです。

西多摩ブロック11月例会のご案内!

4年・ハンドボールの授業づくり

日時 12月5日(土) pm 1:00 ~

会場 あきる野市屋城小 042-558-1128 (渡辺、佐々木)



今回は、校内研究のテーマを背負っての指導案作り。テーマは「体育における言語活動の充実」。体育での言語活動とは何か!

4年生のハンドボールの授業案作りを通して検討します。コンビネーションの中で・・・、作戦づくりの中で・・・? 言語で豊かにつながる授業づくりを考えましょう。